

Fukuoka City Public Library Movie Hall
福岡市総合図書館映像ホール

シネラ

5

Ciné-là NEWS
シネラ・ニュース
May.2000 No.46

特集

マジックの不思議な世界

センス・オブ・ワンダー！イン・アジア



魔法使いとて一服したいときもある。でも子どもたちの前では、
たばこもそれなりに格好良く吸わねばならない。

『エスタツパン』 イラスト&文:山下良平

[特別企画]

黒澤明の世界

黒澤明の世界

特別企画

日本を代表する巨匠・黒澤明監督の特集

●会期
4月26日(水)～4月29日(土・祝)
5月3日(水・祝)～5月7日(日)

●観覧料
800円(大人)
600円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)
※定員制、各回入替制
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

姿三四郎 4木・祝 7日 11:00

1943年/35ミリ/モノクロ/80分/東宝
原作:富田常雄 出演:藤田進/大河内傳次郎

黒澤の監督第一作であり、脚本も自らが執筆している。明治15年、柔術を志した三四郎が、矢野正五郎の門下となり、幾多の試練を経て、柔道のすばらしさを知り、一人前の柔道家になっていく。戦時下の厳しい統制の中で作られたとは思えない骨太な娯楽映画の傑作。



わが青春に悔なし 4木・祝 15:00

1946年/35ミリ/モノクロ/110分/東宝
脚本:久板栄二郎 出演:原節子/藤田進/大河内傳次郎

戦前の滝川事件と戦中のゾルゲ事件を下敷きに創作された女性映画。戦後の黒澤明の出発点を示す作品であり、主人公を演じた原節子にとっても戦後の転回点となった作品。戦時中に反戦運動家と結婚し、様々な迫害や偏見の中、信念に生きる女性の姿を描く。労働組合の意向により、後半のプロットが変更されたという。



静かなる決闘 6土 11:00

1949年/35ミリ/モノクロ/95分/大映
原作:菊田一夫 出演:三船敏郎/三條美紀

戦時中、野戦病院の医師として従軍した主人公・藤崎はある男の手術中に梅毒に感染する。この病気に冒されたことを知った彼は、帰国後、誰にも相談せずに一人闘うことを決意し、恋人をも遠ざけてしまう。当時、不治の病であった梅毒をテーマにし、医師としての良心と葛藤を描こうとした作品。



黒澤明の略歴

1910年四男三女の末子として東京に生まれる。少年時代から映画をよく見ていて、ドフトエフスキー、トルストイなどロシア文学を愛読。旧制中学(現在の高校)卒業前後から画家を目指し、二科展入選経験あり。自活するため、1936年P・C・Lに入社。同年、P・C・Lが東宝と合併、主に山本嘉次郎に師事する。1940年からの映画法施行に伴い、戦時統制が強化されて製作の機会なくシナリオ執筆に専念、1943年、「姿三四郎」で監督デビュー。1948年、第三次東宝ストの影響で東宝での映画製作が困難となり、山本嘉次郎らの独立プロ「映画芸術協会」に参加。1952年東宝に復帰、1958年「隠し砦の三悪人」の大幅な予算超過から、独立して黒澤プロを設立。以後、黒澤プロと東宝の提携で作品を製作。1960年代半ばから海外との提携合作を模索するが、1966年「暴走機関車」1967年「トラ・トラ・トラ!」などの企画は共に不調に終わる。1969年、木下恵介、市川崑、小林正樹と「四騎の会」を結成。1975年の「デルス・ウザーラ」で初の海外製作(ソビエト)作品を監督。1965年「赤ひげ」から1990年「夢」まで5年に一作のペースで作品を発表。1991年「八月の狂詩曲(ラブソディー)」を製作し、1993年「まあだだよ」が遺作となった。1998年9月死去。監督作品本数、31本(内共同監督作品一本を含む) 仏・レジオン・ドヌール賞、文化勲章(映画人としては初)の他、国内外の特別表彰、受勲多数、享年88歳。

海外での主な受賞

1950年の「羅生門」でベネチア映画祭グランプリ受賞。戦後日本映画で最初の国際映画祭受賞となる。以後、1952年の「生きる」がベルリン映画祭銀熊賞。1954年の「七人の侍」がベネチア映画祭銀獅子賞、1958年の「隠し砦の三悪人」でベルリン映画祭銀熊賞、1975年の「デルス・ウザーラ」でモスクワ映画祭金賞及びアカデミー賞外国語映画賞、1980年の「影武者」でカンヌ映画祭グランプリ受賞。

羅生門 5金・祝 7日 11:00

1950年/35ミリ/モノクロ/87分/大映
原作:芥川龍之介 出演:三船敏郎/京マチ子

原作は芥川の「藪の中」。構成や映像表現の中に大胆な実験を数多く試み、戦後の日本映画において最初の国際的評価(ベネチア映画祭グランプリ)を獲得。その後の日本映画を黄金時代に導いた作品であり、「世界のクロサワ」の第一歩となった、日本映画史上に残る一作。



醜聞<スキャンダル> 3水・祝 11:00

1950年/35ミリ/モノクロ/104分/松竹
脚本:菊島隆三/黒澤明 出演:三船敏郎/山口淑子

タイトルのとおり、マスコミの過剰なスキャンダリズムに対する批判をテーマとした作品。一方で志村喬が演じる病気の娘を持つ弁護士の間人像を力強く描き出している。山口淑子の息を飲むような美しき、千秋実、北林谷栄、上田吉二郎など芸達者が脇を固め、黒澤作品としては珍しくのんびりしたムードが漂う作品。



生きる 3水・祝 5金・祝 15:00

1952年/35ミリ/モノクロ/143分/東宝
脚本:橋本忍/小国英雄/黒澤明 出演:志村喬/小田切みき

志村喬が演じる主人公が、雪降る公園のブランコに乗って、「命短し、恋せよ乙女…」と唄うシーンがあまりにも有名なこの映画は、トルストイの「イワン・イリッチの死」に着想を得て構想された。人間の生と死、「生きる」ということの本当の意味を問い、黒澤作品の中でも特に評価の高い作品の一つである。



七人の侍 6土 15:00

1954年/35ミリ/モノクロ/207分/東宝
脚本:橋本忍/小国英雄/黒澤明 出演:志村喬/三船敏郎/千秋実

野盗化した野武士達に苦しめられている農民達が侍を雇い、村を守ろうとする。あまりにも有名なこの映画は、ヒューマニズム、社会性、娯楽性などあらゆるテーマを内包し、昇華したまさに第一級の大作。映画史上屈指の名作としてその評価は不動のものであり、まさに時代を越えた傑作である。



特集 日常とは違う奇妙な感覚、ファンタジー、不思議な世界を描いたアジア映画の秀作特集。

アジアの不思議な世界

～センス・オブ・ワンダー・イン・アジア～

会 期：5月10日(水)～5月26日(金)

※休館日、休映日を除きます。

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。※チケットはすべて当日券。

※福岡市在住の障害者の方は無料。

福岡市在住の65才以上の方は半額。

(手帳の提示が必要です。)

10日(水)14:00/13日(土)11:00/24日(水)19:00

新生 Birth of a Butterfly

1998年/35ミリ/カラー/100分/イラン

監督:モジュタバ・ライ/出演:ラヒム・ジャハニ

「誕生」「道」「蝶」の三部からなるオムニバス映画。「誕生」は粗暴な義父とうまくつき合えない兄妹の物語。「道」は足の不自由な少年が、自分の足と祖母の腰の痛みを治そうと巡礼に行く物語。「蝶」は学校のない田舎の村に赴任した若い教師と村はずれに住む少年の物語である。いずれもイスラム教に基づいた神話的で不思議なエピソードであり、蝶が神秘的な存在として登場する。



日本語・英語字幕付き

10日(水)19:00/13日(土)15:00/24日(水)14:00

エスタッパン Esthappan

1980年/35ミリ/カラー/94分/インド

監督:G・アラヴィンダン/出演:ラージャン・カッカナードン

主人公のエスタッパンはいつもぶらぶらしていて、何をしているのかよく分からない男である。人の家の壁に絵を書いたり、泥棒が逃げてくると身代わりになって殴られたりしている。また子供を相手に奇跡を起こしたりするという。ある人は彼をペテン師だといい、ある人は聖者だという。映像詩人アラヴィンダンが描く、純粹無垢な人間の姿がここにある。



日本語字幕付き

11日(木)14:00/14日(日)11:00/25日(木)14:00

モノローグ Monologue

1987年/35ミリ/カラー/126分/インド

監督:アドゥール・ゴーパラクリシュナン/出演:アショーカーン

主人公アジャヤンは生まれてすぐに捨てられ、医師の手で息子として育てられる。成長したアジャヤンは人並み外れた才能を発揮するが、そのため人々から疎まれ、自分の殻に閉じこもってしまう。この映画はアジャヤンが自らの人生を回顧する形で進行するが、アジャヤンの独白は次第に現実と幻想の境を失い、アジャヤンの内的世界の物語へと変容していく。



日本語・英語字幕付き

11日(木)19:00/14日(日)15:00/25日(木)19:00

素晴らしいとき My Wonder Year

1993年/35ミリ/カラー/115分/タイ

監督:ソムチン・スリスバブ/出演:モス・パティバルン

主人公トンの兄は映画製作者を志し、父と喧嘩の末、交通事故で死んでしまった。兄を尊敬していたトンは兄の意志を継ぎたいと思っていたが、父はエンジニアになることを望んでいた。そんなある日トンの前に兄の幽霊が現れる。タイで人気のあるハイティーン向けの娯楽映画であり、映画へのノスタルジーに溢れたファンタスティックな作品である。



日本語・英語字幕付き

12日(金)14:00/17日(水)19:00/26日(金)19:00

アナザー・ワールド The Two Worlds

1990年/35ミリ/カラー/136分/タイ

監督:チュート・ソンスイ/出演:チャツチャイ・ブレンパーニット

女子大生メニーは骨董品屋で不思議な鏡を購入する。ある日メニーは鏡の中に引き込まれると、そこは100年前のタイだった。そこで若い外交官テュープと知り合ったメニーは、タイの独立を保つ為に協力を頼まれる。タイムスリップを描いた作品であるが、タイの仏教的な考え方が反映されている。



日本語・英語字幕付き

12日(金)19:00/17日(水)14:00/20日(土)15:00

運命からの逃走 Who is Running?

1997年/35ミリ/カラー/105分/タイ

監督:オキサイド・パン/出演:サンヤー・クンナゴーン

主人公ジャップには美しい婚約者ワーンがいたが、ある日ワーンは交通事故のため、危篤状態に陥ってしまう。ジャップの前に現れた謎の僧侶は、ワーンの事故は前世の因縁であり、ワーンを救うためにはジャップが5人の人間を救わなければならないと言うのだ。輪廻転生をテーマにSFをふんだんに使った娯楽映画であり、タイ国内で大ヒットした作品。



日本語・英語字幕付き

19日(金)19:00/20日(土)11:00/26日(金)14:00

海に抱かれて In the Navel of the Sea

1998年/35ミリ/カラー/113分/フィリピン

監督:マリル・ディアス=アバヤ/出演:ジョマリ・イラーナ

フィリピンの小さな島で、助産婦の息子として生まれた青年ペビートの物語。現代文明から隔絶した島で、ペビートを中心に島の人々の様々な人生が描かれる。美しい海と島の自然の描写と共に、島に伝わる古い因習や信仰、魔術までが現実のものとして描かれており、まるで神話がファンタジーの世界のような味わいの映画である。



日本語・英語字幕付き

18日(木)14:00/21日(日)11:00

トゥア Tuah

1989年/35ミリ/カラー/121分/マレーシア

監督:アンワーディ・ジャミル/出演:ジャマル・アブデイル

15世紀、マラッカ王国の黄金時代の人物ハン・トゥアは、今なおマレーシアで人気の高い歴史上の人物である。この映画はハン・トゥアが現代マレーシアにタイムスリップして騒動を巻き起こすというSF映画である。ハン・トゥア役のジャマル・アブデイルは当時的大スターであり、映画の挿入歌も彼が歌っている。



日本語字幕付き

18日(木)19:00/19日(金)14:00/21日(日)15:00

ルーージュ Rouge

1988年/35ミリ/カラー/96分/香港

監督:スタンリー・クワン/出演:アンタ・ムイ

過去に死んだ女の幽霊が現代に現れ、一緒に心中をしようとした男を探するという幽霊物語である。現代のカップルが幽霊に協力して相手の男探しをする、その過程で二人は醒めかけた愛をとりもどすことになる。過去の情念へのこだわり、耽美的な映像などスタンリー・クワン監督の映像美の世界が展開される。人気スター、レスリー・チャンが生き延びた男として出演している。



日本語字幕付き

今回特集するのは、いずれも現実とは違う非日常的な作品ばかりである。幽霊を描いた「ルーージュ」「素晴らしいとき」は、アメリカのホラー映画とは違う、アジアらしいファンタスティックな作品といえるだろう。「エスタッパン」「新生」では、奇跡は人を

アジア映画の不思議な世界

信じることから始まることを教えてくれる。「運命からの逃走」「アナザー・ワールド」「トゥア」は宗教的な思想を背景にしたSF映画である。派手な特撮は無くとも、そのセンス・オブ・ワンダーは十分に伝わってくる。「モノローグ」「海に抱かれて」は心の中にあるファンタジーの世界を見事に映像化した作品である。

多くの作品に共通の特徴としては、宗教的な考え方が根底にあることがいえるかもしれない。しかし別に宇宙の遙か彼方の星まで行かなくとも、ファンタジーは我々のすぐ側にあるのだ。

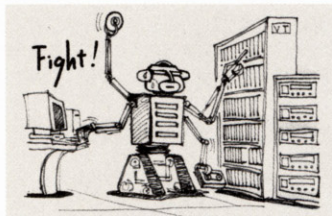
ハリウッドSF映画に疲れた時、我々はもっと身

近な不思議な世界を必要とするように

なるのではないだろうか。

「AV資料と付き合い」

ビデオライブラリーが所蔵する現在のAV資料の総数は約15,000点で、それらを管理し、ライブラリーの資料として機能できる状態にするためには、いったいどのような作業が必要なのでしょう。最終的な目的は、利用者がハイパーポチから検索でき、映像、音声ブースでの視聴および音声資料の貸し出しが可能な状態にすることです。そこでまず必要になる作業は資料のデータ作成です。十数項目に及ぶ番組情報(タイトル、人名、曲目をはじめ、番組一本一本の再生時間を秒単位で計測する)を手入力します。それは個人個人のプロフィールを丹念に作り上げる作業に似ており、入力したデータは図書館のデータベースに反映され、検索が可能となるわけです。AV資料そのものについても、手作業で管理用のシールを貼り、運用できる最終的な状態に仕上げていきます。配架後も



こんなロボットが本当は欲しい!

さらに作業は続きます。基本的にAV資料は、ブースで視聴されることを前提に収集されているため、スムーズな運用を維持するための下準備は欠かせません。通常、利用者がボタン操作によって番組をリクエストし、スタッフが手差しで再生しておりますが、利用頻度の高い番組等の再生は自動再生ロボットが受け持つことになっています。ビデオの場合、7台のビデオデッキを内蔵した5機のロボット(7台×5機=35VTRデッキ)が開館時間中忙しく働いてくれています。ただしロボットが再生できるビデオテープには限りがあるため、

どの番組をロボットに入れ込めばいいか、またどの番組をロボットから出して、手差し再生させるかを振り分け、定期的に入れ替え作業を行います。年間利用回数が300回を超える番組もあれば、1年に1回の利用があるかないかという番組も存在するわけです。面白いことに時代の傾向がそれなりに反映されていて、世間で話題になることにより今までライブラリーで見向きもされなかった番組の利用回数が急上昇し、結果的にはめでたく自動再生ロボット入りをはたすということもめずらしくありません。その時

その時の傾向に応じて番組情報を修正することが必要になってくるわけです。また、運用上絶対に欠かせないのは、資料のメンテナンスでしょう。一日100枚以上返却されてくるCDの中から、破損したケースの修復、キズついた資料のチェックや磨きこみ、ラ

イブラリーで再生中に切れたビデオテープの修復などなど、毎日のようにスタッフの手によって行われております。複雑なシステムの中に組み込まれたAV資料の総てを管理できるロボットはどこにも存在しません。だからこそ少しでもスムーズにことが運ぶように人の手をかけることがAV資料と付き合いしていく上で大切だと思います。利用者と資料の気持ちのいい出会いをイメージしながら、サービスを提供していこうと思っています。

映像調査員/山下良平

お知らせ

INFORMATION

各団体の自主上映

● 5月27日(土) 12:30/15:00

「大菩薩峠・完結篇」

(大映/監督:森一生/主演:市川雷蔵)

観覧料/1,000円

主催/W.L.C福岡

(Tel.092-741-7687 瓜生史郎)

● 5月28日(日) 11:00/14:00

「ビザと美德」(監督:クリス・タシマ)

「ライフ・イズ・ビューティフル」

(監督:ロベルト・ベニーニ) 2本立て

観覧料/当日 1,800円 前売り 1,500円

主催/福岡映画サークル協議会

(Tel.092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成12年6月号〜平成13年3月号までの郵便切手(90円×10月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号の予告

※上映が変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

6/ 1~6/4 社会派娯楽映画の巨匠・マニラトナム監督(インド)特集

「ロージャー」【ボンベイ】「ザ・デュオ」

6/ 7~6/11 イメージフォーラム・フェスティバル

6/14~6/25 日本映画の巨匠・内田吐夢監督特集

「土」 「血槍富士」 「黒田騒動」
「妖刀物語 花の吉原百人斬り」
「飢餓海峡」
「人生劇場 飛車角と吉良常」
「真剣勝負」



「人生劇場 飛車角と吉良常」 「飢餓海峡」



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

1 月

休 館 日

2 火

休 映 日

3 水

祝

11:00 醜聞<スキャンダル>

15:00

4 木

祝

11:00 姿三四郎

15:00

5 金

祝

11:00 羅生門

15:00

6 土

祝

11:00 静かなる決闘

15:00

7 日

祝

11:00 姿三四郎

15:00

8 月

休 館 日

9 火

休 映 日

10 水

祝

14:00 新 生

19:00

11 木

祝

14:00 モノローグ

19:00

12 金

祝

14:00 アナザー・ワールド

19:00

13 土

祝

11:00 新 生

15:00

14 日

祝

11:00 モノローグ

15:00

15 月

休 館 日

16 火

休 映 日

17 水

祝

14:00 運命からの逃走

19:00

18 木

祝

14:00 ルージュ

19:00

19 金

祝

14:00 ルージュ

19:00

20 土

祝

11:00 海に抱かれて

15:00

21 日

祝

11:00 トウア

15:00

22 月

休 館 日

23 火

休 映 日

24 水

祝

14:00 エスタツパン

19:00

25 木

祝

14:00 モノローグ

19:00

26 金

祝

14:00 海に抱かれて

19:00

27 土

祝

自主上映 「大菩薩峠・完結篇」

28 日

祝

自主上映 「ビザと美德」[ライフ・イズ・ビューティフル]

29 月

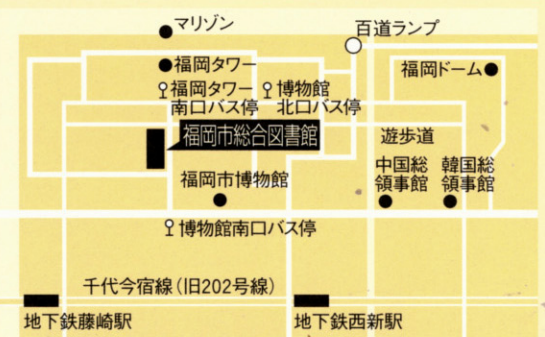
休 館 日

30 火

休 映 日

31 水

月 末 休 館 日



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地 下 鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神〜都市高速経由〜福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅〜都市高速経由〜福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10〜15分間隔で運行されていますので大変便利です。

お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

このシネラニュースの定期購読者は、広く西日本一円や東

京等にも及んでいる。遠路、週末等に当館の映画鑑賞を目的に来福される熱

心なお客様もあり、本当に有り難く、職員の励みでもある。今月は先月に続

く巨匠・黒澤明と、アジア映画の不思議な世界へのいざない。外に出やすい

季節。映画の素晴らしさ・おもしろさに触れていただけたらと思う。(K)

編集雑誌